



株式会社
セブン-イレブン・ジャパン

社会・環境への取り組み
2017-2018



(株)セブン&アイ・ホールディングス

グループ会社

(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)イトーヨーカ堂、(株)そごう・西武、(株)ヨークベニマル、(株)ヨークマート、
(株)赤ちゃん本舗、(株)ロフト、(株)セブン&アイ・フードシステムズ、(株)セブン銀行、
(株)セブン・カードサービス、(株)セブン&アイ・ネットメディア、(株)ニッセンホールディングス、ほか



<発行元>

株式会社セブン-イレブン・ジャパン
企業行動推進室

〒102-8455 東京都千代田区二番町8-8



<http://www.sej.co.jp/social/>

お客様の毎日と、明日のために。



本冊子は、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷、VOC(揮発性有機化合物)ゼロの植物油インキ、見やすく間違えにくいユニバーサルデザインフォント、FSC® 認証紙を採用しています。制作時に排出したCO₂ 4,795kgは、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じてオフセット(相殺)されます。

お願い 本冊子をご不要になった際は、再資源化のため、お住まいの地域のルールでリサイクルいただくようお願いいたします。

「近くて便利」なお店であり続けるために。

セブン-イレブンが掲げる「近くて便利」。

「近く」とは、距離だけではなく、いつでも気軽に頼りにしていただけるこころの近さを、

「便利」とは、安全・安心な商品やサービスがほしい時にほいだけご利用いただけることを表しています。

これからも、近くて便利なお店づくりを通して社会の課題を解決し

地域に寄り添いながら、持続可能な社会づくりに挑戦していきます。

セブン&アイHLDGS. が
特定している

5つの重点課題

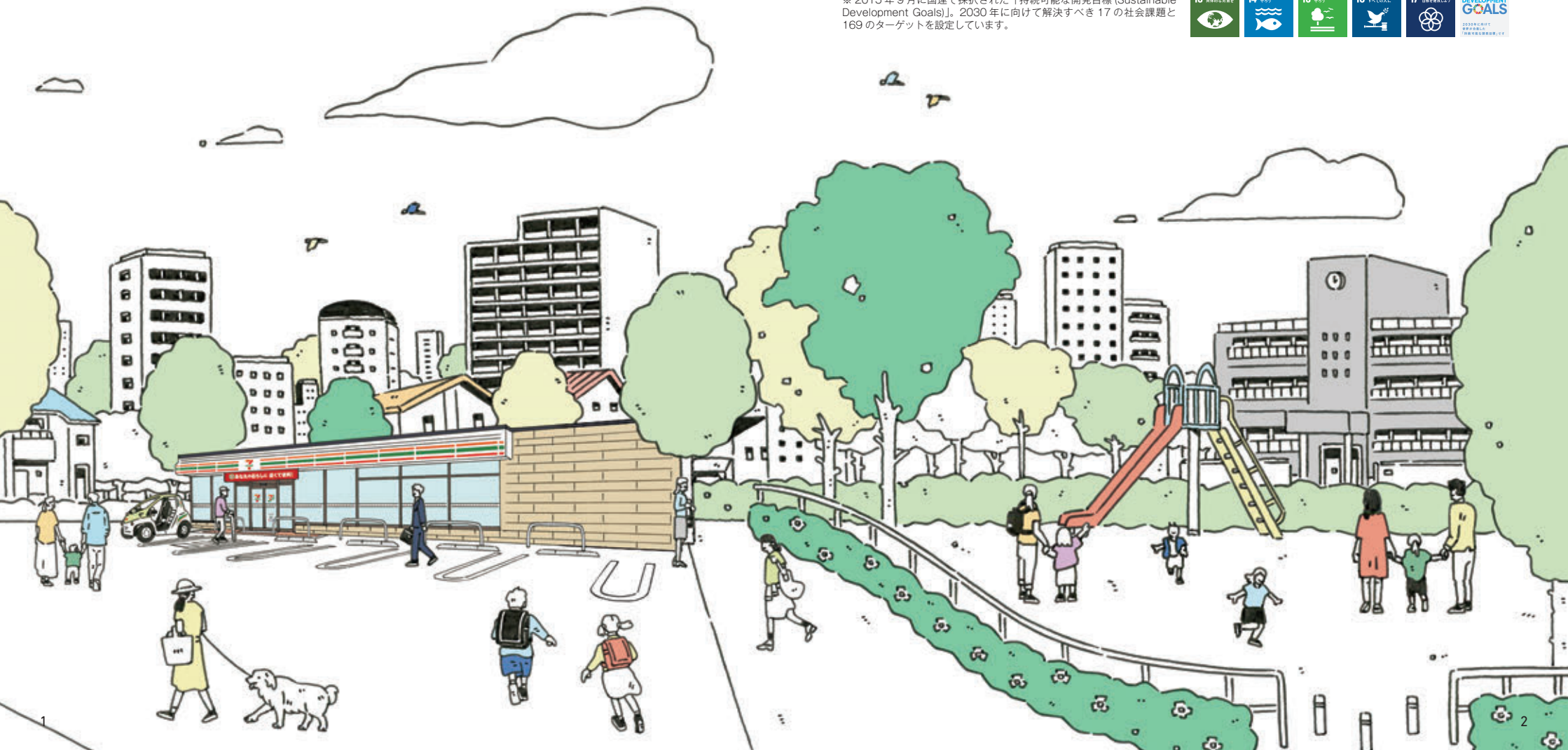
それぞれの課題に対応した
セブン-イレブンの取り組みを
ご紹介します。

目次	ページ
1 高齢化、人口減少時代の社会インフラの提供	3- 8
2 商品や店舗を通じた安全・安心の提供	9-14
3 商品、原材料、エネルギーのムダのない利用	15-22
4 社内外の女性、若者、高齢者の活躍支援	23-26
5 お客様、お取引先を巻き込んだエシカルな 社会づくりと資源の持続可能性向上	27-32
会社概要・環境方針	33-34

グローバルな視点での取り組み

セブン&アイHLDGS. は、持続可能な成長をめざす「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。セブン-イレブン・ジャパンはセブン&アイグループの一員として、そしてグローバル企業としての責任を果たすため、SDGs※に貢献していきます。

※ 2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」、2030年に向けて解決すべき17の社会課題と169のターゲットを設定しています。





1 高齢化、人口減少時代の社会インフラの提供

セブン-イレブンって
配達も
してくれるんだ!



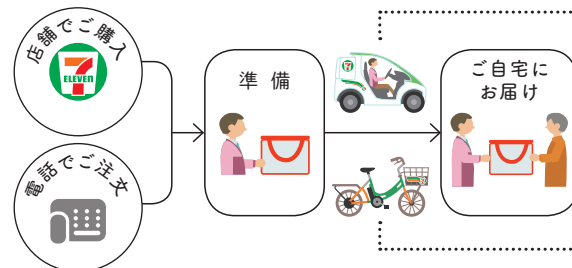
お買い物をさらに便利にするため
お届けサービスに取り組んでいます

少子高齢化、買物拠点の減少など社会環境が大きく変化するなか、買い物にお困りのお客さまに安心してご利用いただけるようセイノーホールディングス(株)と業務提携し、お届けや御用聞きを強化しています。地域の配達員を増やすことで、買い物にお困りの方の生活支援に加え、地域の雇用創出にも貢献しています。

重い荷物やまとめ買い商品をご自宅にお届けする
セブンらくらくお届け便

店舗でご購入いただいた商品や電話でご注文いただいた商品をお客さまのご自宅などにお届けするサービス※です。小さなお子さまがいるご家庭や、高齢の方のお買い物支援につながっています。

※一部ご利用いただけない店舗もあります。



環境にやさしい
配達をしています

配達には超小型電気自動車「コムス」や電動自転車を利用するなど環境にも配慮しています(2017年8月現在でコムス832台、電動自転車2,635台が稼働)。

高齢者の見守りにもつながるお届けサービス

ご自宅への商品のお届けは、定期的にご注文くださる高齢の方の見守りにもつながっています。配達時に異変を察知した場合、各自治体にも報告して対応するなど、安心な生活のサポートに協力しています。



STORE REPORT



ご高齢の方に「本当にありがたい」と言っていただけるそうやってより良い関係を築いていけることが何よりのやりがいです

毎日のお弁当のほか、洗剤や飲料、トイレトペーパーなど生活必需品の配達を頼まれることもあります。近所に買い物できる場所がない高齢の方には、とても重宝されていて、地域の役に立っていることを実感しています。
(浦賀店 前オーナー)

高齢化が進む地域だからこそ本当にお客さまが求めているサービスを提供したいその思いを従業員とも共有しています

より深くお客さまとのコミュニケーションを図れることが、このサービスの魅力。従業員もやりがいを感じてくれていて、先日も従業員が自分たちで考え、お客さまへのアンケートを実施してくれました。これからも一丸となって“地域に役立つサービス”を追求していきます。
(浦賀店 オーナー)



セブンミールのお弁当「おまかせ御膳 さばの塩焼き」

配食サービス セブンミールでお客さまの健康的な食生活をサポート

医師や管理栄養士の監修による栄養バランスに配慮したお食事や、保存料や合成着色料を使用しない、安全・安心でおいしいお食事をお届けしています。また、お米や日用品など重くかさばるものも玄関先までお届けします。店舗でのお受け取りも可能です。

移動販売車でお伺い セブンあんしんお届け便

過疎化が進む地域や被災地など、お買い物が必要な地域には、移動販売車を使って、お買い物の場を提供することにも取り組んでいます。2017年6月現在、1道22県で41台が稼働しています。



商品をご注文後ライフスタイルに合わせてお受け取りができる「オムニ7」

全国に19,600店以上あるセブン-イレブンで、お客さまのご都合に合わせて、ネットで注文し商品を受け取ることが可能です。また、店内のタブレット端末を使うことでその場で商品を検索し、すぐにご注文いただけるため、ネットショッピングを手軽にご利用いただけます。



行政と連携

安全・安心な社会づくりを推進

「災害時支援」「子育て支援」「高齢者見守り」「住民サービスの向上」「地産地消」などの活動を地域社会とともに推進するため、全国の自治体と地域包括連携協定の締結を進めています。2017年7月現在、82自治体（42道府県 40市区町）と協定を結んでおり、今後も地域の活性化や安全・安心に対する取り組みに協力していきます。



東京都江東区と「高齢者地域見守り活動に関する協定」を締結(2016年7月)



AED(自動体外式除細動器)の設置場所を提供

22 都道府県 72 市町村と連携し(2017年8月現在)、724 店で AED の設置場所を提供しています。

認知症サポーター養成講座

を積極的に受講

すべての人が安心して暮らせる街づくりの一環として、厚生労働省が推奨する「認知症サポーターキャラバン」事業に参加しています。認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、認知症の方やご家族を支援するボランティアです。

セブン・イレブン本部社員の約7割が認知症サポーター養成講座を受講しています。さらに、加盟店のオーナーや店舗従業員の皆さんにも認知症サポーター養成講座の受講を呼びかけ、地域の方々安心してご利用いただける店舗を増やしています。



セブン・イレブン本部で開催した認知症サポーター研修



行政証明書の交付サービスを 兼ね備えたコピー機

自治体と連携し、住基カード(2016年よりマイナンバーカード)を使って「住民票の写し」など6種類の証明書を店内のマルチコピー機で発行できるサービスを開始しています。自治体とJ-LIS(地方公共団体情報システム機構)間で接続されているネットワークを使用することで、高度なセキュリティを実現しており、行政の受付時間に窓口へ向かうことが難しい方でも、近くの店舗で簡単・便利に証明書を受け取ることができるようになりました。2017年7月現在、住所地の証明書交付(428市町村)および本籍地の戸籍証明書(122市町村)の発行が可能です。今後さらに提携する自治体の拡大が見込まれています。



多様なニーズにお応えする セブン銀行 ATM

セブン銀行のATMは、すべてのお客さまに安心してご利用いただけるよう、ATM機能やサービスを日々進化させています。

視覚障がいのあるお客さまにご利用いただける「音声ガイダンスサービス」をはじめ、色覚タイプの違いを問わず、より多くの人が見やすくなるカラーユニバーサルデザインを導入しています。

ATMには、杖や傘、コーヒーカップなどが置ける「杖・ドリンクホルダー」を設置しています。





2 商品や店舗を通じた 安全・安心の提供



全国に広がる店舗は
「まちの安全・安心の拠点」です

セブン・イレブンは、お客さまの生活に近い「まちの安全・安心の拠点」となっています。24時間、生活に欠かせない商品・サービスを提供するだけでなく、地域の方に安心してご利用いただける存在をめざしています。

地域に安全と安心を提供する セーフティステーション活動

2005年から、女性や子どもの駆け込みや高齢者保護など地域の安全・安心をサポートするセーフティステーション活動に取り組んでいます。

「未成年者への酒類・たばこの販売防止」「女性や子どもの駆け込みや高齢者の保護」「ATMを使った振り込み詐欺の抑止」など、地域の見守り役を担っています。

地域の方々の 駆け込みに対応

2016年には、全国4,168店で高齢の方を保護し、警察やご家族に連絡しました。また、急病の方などの保護や振り込み詐欺などの通報にも対応しています。

高齢者保護	4,168店	7,518回以上
女性の駆け込み	2,188店	2,981回以上
子どもの駆け込み	1,240店	1,775回以上
特殊詐欺(振り込み詐欺など)の抑止	1,470店	

「困ったことがあったら
このポスターがはってある
お店にかけこんでいいよ」って
先生が言ってたよね!



2 商品や店舗を通じた安全・安心の提供

高い品質を支えるインフラ

製造工場
全国 **181** 拠点 (専用工場 全国 167 拠点)

温度帯別共同配送センター
全国 **150** 力所

プロセスセンター
調味料 / **9** 力所 野菜 / **9** 力所
(2017年2月末現在)

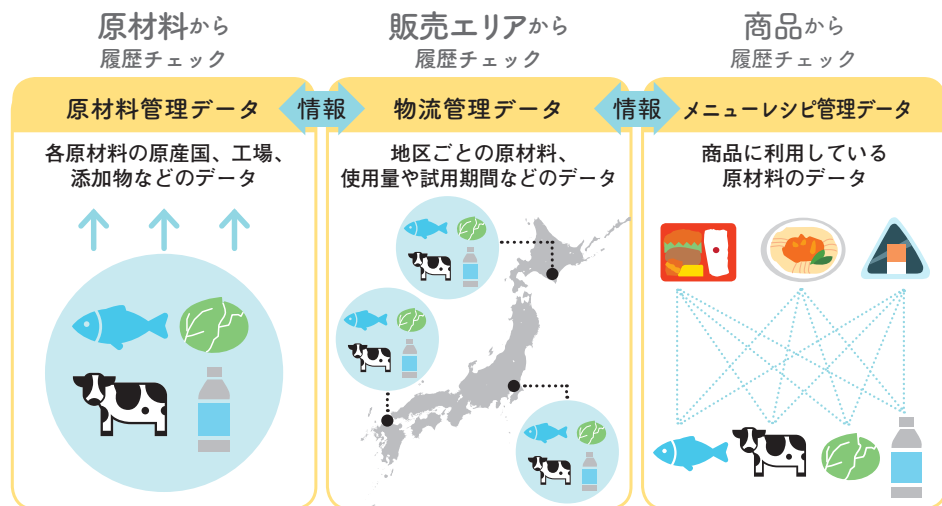
品質の高い商品をお届けするため専用工場

創業期からお取引先にセブン・イレブン専用工場の運営を依頼。店舗の近くに専用工場を設置することで、配送効率を高めながら、より新鮮な商品をお届けするセブン・イレブン独自の仕組みを構築しています(デイリー商品専用工場比率約92%)。

品質管理については、食品の衛生管理手法「HACCP」をもとに独自の安全基準を策定しており、製造工場の品質管理レベルは年々向上しています。

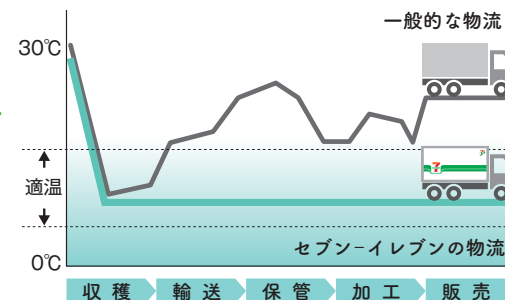
商品がどこで、どのようにつくられたかを管理するレシピマスターシステム

おにぎりやお弁当などのオリジナル商品は、どこで、どのような原材料が、どのくらい使用されているのかを確認できる「レシピマスターシステム」を運用し、原材料産地や加工方法、管理状況などをデータベースで管理しています。これにより原材料までさかのぼって履歴を確認することが可能です。



一貫して最適な温度を維持し新鮮でおいしい食材を届けるコールドチェーン

新鮮な野菜のおいしさをお客さまにお届けするために、サンドイッチやサラダなどに使用している野菜は、収穫直後から低温保管し、輸送から販売まで一貫して最適な温度(加熱処理しない葉物類は10℃以下)を維持しています。



27品目のアレルギー情報を表示

お弁当、お惣菜、パン、デザートなどのオリジナル商品については、表示が義務づけられている7品目に加え、表示が推奨されている20品目についても明記しています。

お客様の安心のため保存料・合成着色料ゼロ

セブン・イレブンは、2001年9月、コンビニエンスストア・チェーンで初めておにぎり・お弁当・サンドイッチなどのオリジナル商品において「保存料・合成着色料」を不使用としました。

対象の商品
おにぎり・お弁当・サンドイッチ・惣菜・調理麺・デザートなど

着色料
クチナン、野菜色素などの天然着色料を使用



健康に配慮しトランス脂肪酸を低減

過剰摂取により心臓疾患のリスクを高める可能性があるトランス脂肪酸の低減を2005年から推進しています。専用工場製造のパンに使われるフライ油や練り込み油脂を低トランス化するなど、お取引先と協力して独自の取り組みを続けています。

いざというとき力になる 災害時の対応

大規模災害が発生した際でも、「困っている時だからこそ、地域のお役に立ちたい」との思いから、多くの店舗が安全性を確保のうえ、営業を続けています。お取引先のご協力をいただきながら、緊急物資支援や商品供給など、被災地域の復旧に向けて全力でバックアップします。



停電のなか、被災しながらも営業を続ける店舗
(2016年4月 熊本地震)

セブンVIEWで災害状況を把握

セブン&アイHLDGS.は、インターネットの地図上で地震、津波、洪水などの災害状況や道路の通行情報、店舗の状況などを精度高く把握できる「セブンVIEW」を開発し、セブン-イレブンを含むセブン&アイグループ全体で活用しています。

活用の目的

- ①災害の発生前に予報を入手して、災害予測を立てる
- ②災害時には、被害の状況を正確に把握し、見える化する
- ③災害発生後は、災害や被害状況把握をもとにさまざまな対策を立てる

台風、地震、大雪、大雨などの自然災害時の被害を最小に抑えるためには初動の対応が極めて重要です。大きな災害が発生しても、省庁や自治体、公共機関と協力・連携し、1日でも早く社会インフラを復旧させ、被災された地域の方々に安心をお届けできるよう、各機能のさらなる向上と活用法を検討しています。



地図上で災害状況や店舗の被害状況を「見える化」

災害発生時に暮らしを支える 指定公共機関に指定

2017年7月、セブン-イレブンは国が定める「災害対策基本法」第2条第5号に基づく指定公共機関に指定されました。平時から物資や資材を備蓄することによって、災害発生時に速やかな緊急支援を実施し、暮らしを支えるライフラインとしての役割を強化しています。



災害時にはWi-Fiを特別開放する セブンスポット

「セブンスポット」とは、会員登録（無料）をすることで高速インターネットへの接続、限定コンテンツやサービスをご利用いただけるWi-Fi（無線LAN）サービスです。全国約19,000店（2017年7月現在）に設置しており、2015年9月からは災害時の特別開放の運用を開始しました。災害時はセブンスポットに会員登録しなくてもアクセスが可能となり、スムーズに安否確認や災害情報の取得が可能です。



車両飛込み事故対策として ガードパイプを設置

店舗への車両飛び込み事故を防止するため、2013年9月から店舗のフロントサッシ前にガードパイプ（防護柵）を設置。2017年7月現在、約11,200店に設置しています。





3 商品、原材料、エネルギー のムダのない利用

あ、セブン-イレブンって
太陽光発電してるんだ



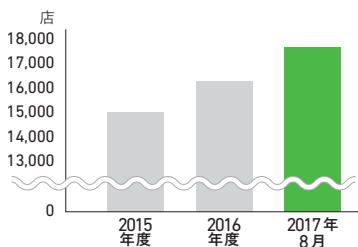
より環境にやさしい店舗へ
太陽光パネルの設置を拡大

環境問題への取り組みとして、太陽光パネルの設置を進めており、発電された電力はすべて店舗で使用しています。太陽光パネル設置店舗は約8,000店舗（2017年8月現在）に拡大しています。

LED照明の導入で電力使用量を削減

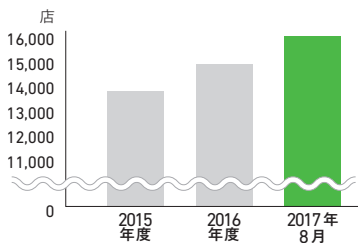
2011年からLED照明を標準仕様とし、店頭看板やサインポール、店内照明に使用しています。2017年8月には店内照明の電力使用量を従来よりさらに約20%削減しています。また店頭看板とサインポールはLED照明を最新の機種に切り替え、それぞれ使用量を約10%削減しています。

店頭看板



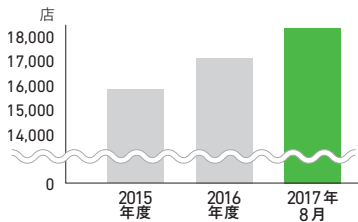
約17,600店

サインポール



約16,100店

店内照明



約18,300店



電子レンジを整備し、再使用

店内設備のリユースを促進

資源を無駄なく利用するため、閉店した店舗の冷蔵・冷凍ケースやPOSレジ、おでん什器、電子レンジなどの店内設備を回収し、清掃・整備、点検を行った後、新たな店舗でのリユース（再使用）を進めています。2016年度の1年間にリユースした店内設備は、約36,000台におよびます。

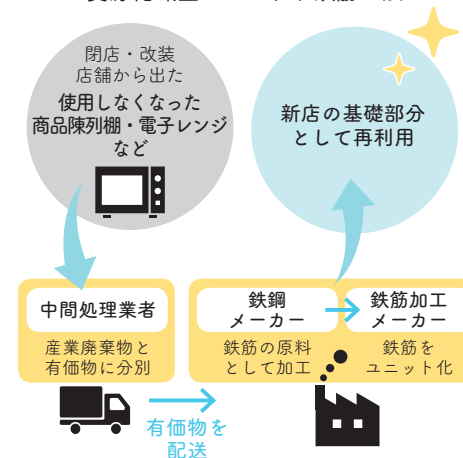
資源の循環を促進

店舗から引き揚げた商品陳列棚や電子レンジなどのうち、再利用できない設備の一部を加工し、新しい店舗の基礎部分の鉄筋に使用しています。

また、鉄筋加工メーカーで鉄筋を最適な形に加工することで、組み立てを簡易化し、基礎工事にかかる人手や作業時間を削減する方法を導入しています。

今後も、資源の再利用を促進することで環境に配慮するとともに、循環型社会の構築に取り組んでいきます。

資源循環型のユニット鉄筋工法



木造建築で

環境にやさしい店舗づくり

木造建築の店舗は、一般的な鉄骨づくりに比べて資源調達時から建設時までのCO₂排出量が少ないという利点があるうえ、解体時における廃棄物の削減が可能です。

2009年から出店を開始し、北海道、山形県に237店（2017年8月現在）を出店しており、今後も拡大していく予定です。



水素ステーション併設店舗

水素ステーションの併設店舗を通じて新たな地域インフラを提供

岩谷産業（株）と連携して、水素ステーションを併設した店舗を展開しています。

水素ステーションは、クリーンな自動車として普及が期待される、燃料電池自動車の燃料となる水素を供給する施設です。併設店舗の展開によって「商品」「サービス」「クリーン・エネルギー」を1ヶ所で提供し、新たな地域インフラとしての拠点づくりをめざしています。

環境配慮型車両の使用でCO₂ 排出量を削減

配送車両には、地球環境に優しいハイブリッド・EV・水素などの燃料電池トラックを導入し、CO₂ 排出量の削減をめざしています。

配送車両約 5,900 台のうち、環境配慮型車両の導入は約 870 台（2017 年 8 月現在）です。またエネルギーロスを低減するエコタイヤ※1の導入や、リユース促進のために更生タイヤ※2の導入も進めています。

※1 転がり抵抗を減らし（＝よく転がる）、低燃費性能に優れたタイヤ

※2 摩耗したタイヤの基礎部分を活かし、路面に接するゴム部分を新しくしたタイヤ



水素を活用して発電する燃料電池を使用したトラック（イメージ）



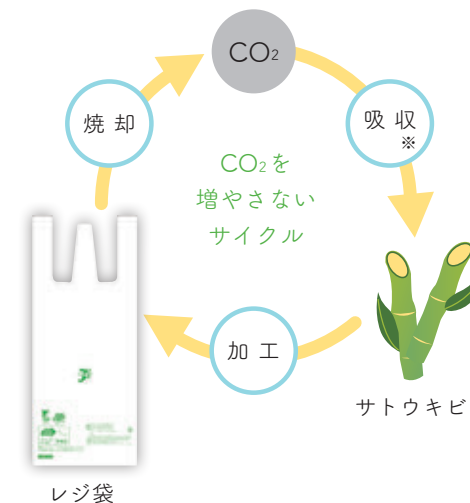
ドミナント方式で物流を効率化

セブン-イレブンは、一定エリア内に集中出店する「ドミナント方式」を採用しています。工場から効率良く配送することにより、新鮮な商品をお届けしています。また、輸送距離が短くなることでCO₂ 排出量も削減できるなど、環境面でも大きな効果を生んでいます。

お客さまとともにレジ袋を削減

店舗では、レジ袋の使用量を削減するため、レジ袋削減ポスターの掲示、レジ対応でのお客さまへの声かけ、商品の大きさに応じた袋づめを実施しています。

そのほか、植物からつくられた原料を一部配合したバイオマスポリエチレンレジ袋の活用を進めています。



レジ袋

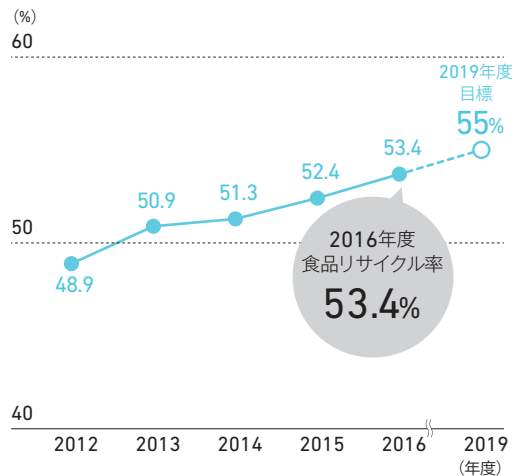
※セブン-イレブンのバイオマスレジ袋は、サトウキビを加工した原料を使用し、CO₂を30%吸収しています。

食品リサイクルで 食品廃棄物を有効活用

お店では、あらゆるお客さまのニーズにお応えできるよう、天候や気温、地域のイベント情報などを確認して品揃えをしていますが、やむを得ず、販売期限切れの商品が発生することがあります。そこで、販売期限が過ぎた商品を適正処理する仕組みとして1994年から「エコ物流システム」を推奨。このエコ物流システムを活用し、全国27都府県にて販売期限切れの商品の飼料・堆肥へのリサイクルを推進しています。2016年度には食品リサイクル率は53.4%となりました。今後も食品廃棄物のリサイクルを拡大し、資源の有効活用を進めていきます。



食品リサイクル率推移



循環型の食品リサイクルで サプライチェーンと協働

販売期限が切れたお弁当やお惣菜など（保存料・合成着色料不使用）をリサイクルした原料を含む配合飼料を指定の養鶏場で利用しています。生産された卵を原材料の一部に使用する循環型のリサイクルを東京都と埼玉県の一部の店舗で実施しています。

行政と連携し使用済みフライヤー油をバイオディーゼル燃料化

揚げ物など店内調理で使用したフライヤー油は、飼料のほかさまざまな形にリサイクルをしています。

愛媛県ではご家庭の使用済み天ぷら油を回収し精製することで、バイオディーゼル燃料への再資源化を推進しています。品質も保証されているこの燃料は、軽油同様の使用が可能のため、建設機械やゴミ収集車、また松前町では一部の路線バスの燃料としても利用されています。

この取り組みはゴミの減量化およびCO₂の排出削減にもつながっており、愛媛県内のセブン・イレブンで使用したフライヤー油についても、県が取り組む「エネルギーの地産地消」に協力をしています。



愛媛県内を走るバイオディーゼル燃料バス



接客やお店の清掃・商品の陳列などに使える時間が増えたのでとても助かっています

限りある水資源を大切にすため 食洗機を導入

揚げ物やおでんなどの調理に必要な機器を洗うため、専用の食洗機を導入しています。限りある水資源を大切に使うだけでなく、洗浄のムラをなくすことで衛生管理の向上につながっています。また、これまで洗浄作業にかかっていた手間を軽減するなど、従業員の働く環境の整備にも役立っています。

(大阪春日中1丁目店 オーナー)





4 社内外の女性、若者、 高齢者の活躍支援

おっ、団地の中に
セブン-イレブンが
できてる！

7-ELEVEN あなたの暮らしに近くて便利！

はっけん
FIND

「生活サービスの拠点」として団地に出店し
住みやすい街づくりを応援しています

団地にお住まいの方々により便利に、生活支援サービスなどをご利用いただくため、団地に特化した新たなコンビニエンスストアを出店。住民のニーズが高い商品を揃えるほか、お届けサービス「セブンミール」も積極的に展開しています。自宅の近くで働きたい主婦やシニアの方にも、都合に合わせて働ける職場となっています。

働く場所も、自宅近くなら安心
団地にお住まいの
シニアが活躍

接客業は初めてなので緊張しましたが、慣れてくると常連さんとの間に会話も生まれ、いまでは楽しく働いています。冷凍食品を中心に発注も担当させてもらい、新しいことに挑戦できる喜びを感じています。(JS美住一番街店 従業員さん)



通勤時間は5分以内！
早起きなので生活リズムに合わせて
早朝シフトに入っています
定年退職後も充実した毎日を
送っています

総活躍社会に向け シニアの活躍を支援

店舗では、シニア層の雇用を促進しています。シニアスタッフは、人生の先輩として若い従業員へのお手本となることも多く、なくてはならない存在です。日常生活のご負担にならないよう、ご自身のペースで活躍いただける環境を整えています。



STORE
REPORT



自治体と連携し シニア向けの説明会を実施

少子高齢化や労働人口の減少が進むなか、シニア層の雇用を創出するため、各自治体が開催する高齢者雇用についての企業合同説明会に積極的に参加し、シニア層の採用を促進しています。

シニアの従業員さんは
お客さまへの接客がていねい、親切で
ほかの従業員さんのお手本になっています

初めてシニア向けの説明会に参加しましたが、こんなにモチベーションが高い高齢の方がたくさんいるのか、と驚きました。この説明会で採用した従業員さんは、仕事に誠実で、毎日元気に働いてくれます。

(中野新橋店 オーナー)



シニアスタッフと発注の打ち合わせをするオーナー

さまざまな働き方を応援

ライフステージの変化とともに働き方も変わります。育児中の主婦の方や子育てを終えられた方など、ご自宅から近くの店舗で、空いた時間を有効に活かせる職場として、多くの方が活躍しています。



働く方の生活を支えるセブンプレミアム商品

高齢化や女性の社会進出、単身世帯の増加を背景に2007年にプライベートブランドとして誕生した「セブンプレミアム」。調理時間を短縮できるうえに、保存も可能な商品を多く揃えており、働く女性を中心にニーズが高まっています。



次世代を担う子どもたちに 職場体験・出前授業を開催

セブン-イレブンでは、小・中学生の職場体験の受け入れや出前授業を実施しています。職場体験では仕事を通じて、あいさつの大切さやルールを守ることの重要性を伝えています。2016年には延べ6,700店舗で職場体験の受け入れを実施し、「青少年の健全育成」に協力しています。



出前授業の様子



5 お客様、お取引先を巻き込んだ エシカルな社会づくりと 資源の持続可能性向上



あれ
このマーク
なんだろう？

はっけん FIND

セブンカフェのカップや備品は
環境にやさしい素材でできています

ドリップコーヒー「セブンカフェ」のホットカップは、全国森林組合連合会から「間伐材マーク」の使用を許可された間伐材を使っています。カップの側面には全国森林組合連合会の認定を受けた「間伐材マーク」を印刷。ふたは軽量化し、コーヒーフィルターにはバイオマス原料を使用、ストローはバイオマスPETを配合するなど、年間約10億杯を販売する「セブンカフェ」全体で資源の有効活用を図っています。

セブンカフェの取り組み





5 お客様、お取引先を巻き込んだ エシカルな社会づくりと資源の持続可能性向上

包装パックを**環境配慮型**に変更

資源の枯渇などの環境問題が深刻化するなか、環境にやさしい商品開発に積極的に取り組んでいます。

サラダカップ容器の切り替え



2014年以降、オリジナルの「サラダカップ容器」を石油由来のPET容器から、リサイクルPETや植物由来の原料を使用したバイオマスPETなどを配合している環境配慮型PET容器に切り替えています。2015年に切り替えが完了し、年間約1,790tのCO₂を削減しています。

植物由来インキの使用

おにぎりやサンドイッチ、パンなどのパッケージ印刷には、環境に優しい「植物由来インキ」を使用しています。植物由来インキとは、植物由来の樹脂を原料とするインキです。従来のインキと比べ、石油の利用を抑え、CO₂排出量を削減し、環境負荷の低減につながっています。



このパッケージフィルム本体には、環境にやさしい植物由来の原材料を使用し、印刷には、環境に優しいライスインキを使用しています。



このパッケージのインキには環境に優しい植物由来の原材料を使用しています。



このパッケージの本体フィルムおよびインキには、環境に優しい植物由来の原材料を使用しています。

ペットボトルのリサイクル を促進するため自動回収機を設置

使用済みのペットボトルを店頭で回収し、再利用する取り組みを進めています。お客さまにも一緒に環境保全にご参加いただける仕組みです。

回収したペットボトルは、圧縮し容量を大幅に減らした状態でリサイクル工場に運ばれ、新しいペットボトルや一部セブンプレミアム商品のパッケージなどにリサイクルされます。

資源の枯渇や環境問題が深刻化するなか、限りある資源を国内で循環させる取り組みとして、今後も設置店舗の拡大をめざします。



間伐材を活用

一部の店舗で設置しているイーフトインコーナーのテーブルは、セブン&アイグループと、セブン・イレブン記念財団が健全な森林づくりに取り組む森林保全プロジェクト「セブンの森」で切り出された間伐材を活用しています。木の温もりを感じながら、朝食、昼食、ちょっとしたご休憩時に、幅広いお客さまにご利用いただいています。



セブン-イレブン 記念財団の取り組み

「森」と「海」、2つの視点から「CO₂吸収と酸素の排出」を増やす「豊かな自然環境の再生」を進めています。活動には加盟店やセブン-イレブンの本部社員、グループ社員も参加しています。

蒸発



降雨



海

森

海づくり

「東京湾 UMI プロジェクト」

2013年から、東京湾の環境改善に取り組む国土交通省の「東京湾 UMI プロジェクト」に協力し、横浜でアマモ場の再生活動に取り組んでいます。

アマモは、海中の栄養や CO₂ を吸収し、酸素を放出することで海を浄化する海草です。

アマモ場は、小魚などの隠れ場・生育場、魚の産卵場にもなるため、「海のゆりかご」とも言われ、生物多様性の保全に役立っています。

アマモの葉



2017年5月の「東京湾 UMI プロジェクト」活動の様子

（ブルーカーボン※）
アマモが CO₂ を吸収し酸素をつくります。海が浄化されることで魚のえさ場、産卵地になります。

※海の生き物によって吸収・固定される炭素



2017年7月、国土交通省関東整備局から功労賞を受賞

（グリーンカーボン※）
森林に降った雨水は腐葉土に蓄えられ、ミネラルたっぷりの水に。森林の土壌が水を貯蓄します。また、急激な出水や土砂の流出を防ぎ雨水が森林土壌を通過することで、水質が浄化されます。

※森の植物によって吸収・固定される炭素



高尾セブンの森づくりで下草と低木を刈る様子

森づくり

「セブンの森」活動

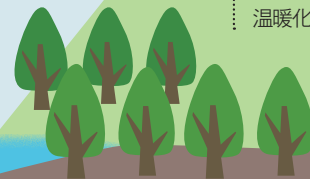
低炭素社会を構築するために、森林の保護・保全活動に取り組んでいます。

セブン-イレブン記念財団が全国17カ所で取り組んでいる「セブンの森」づくりは、「森も海も蘇る」森づくりをコンセプトに、植樹から下刈り・間伐までの森の保育活動を行っています。

また、間伐材を募金箱や商品パッケージ、建築資材などに積極的に使うなど、木材を循環させていくことで森林保全と地球温暖化防止につなげています。

河畔林

上流から運ばれた養分が中・下流の河畔林を生み、魚が住みやすい環境をつくります。



セブン-イレブン店舗のレジ横に設置されている募金箱。宮城セブンの森の間伐材が使用されています

セブン-イレブン記念財団とは

（株）セブン-イレブン・ジャパンの創立20周年記念事業として、加盟店とセブン-イレブン本部が一体となり、環境をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年11月に設立。

セブン-イレブン店頭でお客さまからお預かりした募金と、（株）セブン-イレブン・ジャパンなどからの寄付金をもとに、「環境市民活動支援」「自然環境保護・保全」「災害復興支援」「広報」の事業領域を設け活動しています。



環境市民活動助成で地域の市民活動を支援

助成金を市民団体にお届けし、地域の環境活動を支援する助成金制度「環境市民活動助成」を設け、支援が必要な助成先団体を公募し、直接活動を支援しています。

2017年度

助成総数 302件
助成総額 1億6,742万円

2001～2017年度までの累計

助成総数 3,249件
助成総額 20億2,476万円

これまでも、この先も――

セブン-イレブンは、皆さまの暮らしに寄り添い
お客さまと地域のために変化し続けます。



環境方針

1. 事業活動に対する責任

私たちは事業活動の中で、環境保護、ロス削減、資源の有効利用・再資源化、省エネルギー、廃棄物の削減、環境汚染の予防につとめ、企業の責任を果たします。

2. お客さまとの協力と情報公開

私たちはお客さまの声に耳を傾け、お客さまと共に環境保護につとめ、その活動の結果を文書化し、広くお客さまや社員に情報公開します。

3. 地域社会との協力・社会貢献

私たちは地域とともに環境について考え、環境分野の社会貢献活動を継続的に行い、企業市民としての役割を果たします。

4. 責任と自覚

私たちは、この環境方針にもとづき、企業や社会の中でそれぞれの立場で環境問題について考え、自分の役割を自覚して行動するようつとめます。

5. 環境目標の設定と見直し

私たちはこうした取り組みが年ごとに改善されるようにつとめ、環境に関連する法規制や私たちが同意した要求事項を遵守し、企業活動の分野ごとに自主的目標を定め、それを年ごとに見直し継続的に改善します。

2016年5月29日
株式会社セブン-イレブン・ジャパン
代表取締役社長 古屋 一樹

会社概要

名称	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
代表取締役社長	古屋 一樹
設立	1973年11月20日
資本金	172億円
従業員数	8,562人(2017年2月末現在)
チェーン全店売上高(国内)	4兆5,156億5百万円(2017年2月期)
店舗数(国内)	19,851店(2017年8月)

本冊子の
感想をお寄せください!



社会・環境への取り組み
2017-2018 アンケート
<https://ws.formzu.net/fgen/S35793881/>